

奨励賞受賞者一覧

- 第1回（平成4年） 熱帯熱マラリア原虫47KD抗原遺伝子の単離について
群馬大学助手 狩野 繁之
- 第2回（平成5年） 〈該当者なし〉
- 第3回（平成6年） マンソン裂頭条虫体表の電子顕微鏡的研究
川崎医科大学助手 沖野 哲也
- 第4回（平成7年） 日本住血吸虫パラミオシンcDNAの塩基配列決定及び発現
東京大学医科学研究所 奈良 武司
- 第5回（平成8年） マンソン裂頭条虫の幼虫から単離したGal β 1-4Glc β -3Gal構造
から成る新しいフコース含有スフィンゴ糖脂質
麻布大学 川上 泰
- 第6回（平成9年） 〈該当者なし〉
- 第7回（平成10年） 〈該当者なし〉
- 第8回（平成11年） 〈該当者なし〉
- 第9回（平成12年） *Plasmodium falciparum* セリンリピート抗原遺伝子を用いたDNA免疫：
サイトカイン発現プラスミドによる液性免疫の制御
徳島大学助手 酒井 徹
- 第10回（平成13年） ネパールにおける α サラセミアの分子集団遺伝学的研究 -マラリアによる
 α サラセミアの選択-
九州大学大学院助手 濱野 真二郎
- 第11回（平成14年） マラリア原虫メロゾイトの高分子ロプトリ-蛋白RhopH1をコード
する多重遺伝子族の同定
愛媛大学助手 金子 修
- 第12回（平成15年） 新規抗マラリア薬・環状過酸化化合物の抗マラリア活性と作用機序の
解析
岡山大学助教授 金 恵淑
- 第13回（平成16年） ブルーストリパノソーマ GPI トランスアミダーゼの構造と機能に関
する研究
大阪大学助手 永宗喜三郎
- 最近の日本における寄生虫症の血清疫学的研究
宮崎大学助手 中村（内山） ふくみ

- 第14回 (平成17年) Binding of *Plasmodium falciparum* – infected erythrocytes to the membrane-bound form of Fractalkine/CX₃CL1
群馬大学助手 畑生 俊光
- 第15回 (平成18年) 条虫感染における発育ステージ特異遺伝子発現の証明と血清診断への応用
旭川医科大学 迫 康仁
- 第16回 (平成19年) マラリア原虫の肝細胞感染に必須な新規蛋白の同定と機能解析
パスツール研究所 石野 智子
- 第17回 (平成20年) IL-18with IL-2protects against *Strongyloides venezuelensis* infection by activating mucosal mast cell-dependent type 2 innate immunity.
兵庫医科大学 ポストドクター 佐々木 由紀
- 第18回 (平成21年) 熱帯熱マラリア原虫の赤内期における 5'上流配列およびクロマチン修飾に依存した遺伝子発現
国立医療センター研究所 駒木 - 安田 加奈子
- 新規抗多包条虫薬の標的としての嫌氣的ミトコンドリア呼吸鎖
日本大学助教 松本 淳
- 第19回 (平成22年) 熱帯熱マラリア原虫のライフサイクルにおける原虫プロテインキナーゼの役割
東京大学助教 加藤 健太郎
トキソプラズマ由来分子と一酸化窒素による原虫のステージ変換と宿主細胞アポトーシスの誘導
帯広畜産大学准教授 西川 義文
- 第20回 (平成23年) 〈該当者なし〉
- 第21回 (平成24年) 寄生虫タンデムリピート抗原の網羅的解析および血清学的診断への応用
東京大学助教 後藤 康之
Mitosomes in *Entamoeba histolytica* contain a sulfate activation pathway
佐賀大学助教 見市 文香
- 第22回 (平成25年) Highly conserved gene arrangement of the mitochondrial genomes of 23 *Plasmodium* species
東京大学特別研究員 彦坂 健児
- 第23回 (平成26年) 好塩基球によって誘導される M2型マクロファージによる消化管寄生線虫 *Nippostrongylus brasiliensis* 感染防御応答

- | | | |
|--------------|---|----------|
| | 東京医科歯科大学 | 二宮（小畑）一茂 |
| | Novel TPR-containing subunit of TOM complex functions as cytosolic receptor for <i>Entamoeba</i> mitochondrial transport | |
| | 東海大学医学部 | 牧内 貴志 |
| 第24回（平成27年度） | バイオイメーシングによる <i>Babesia bovis</i> メロゾイト滑走運動の研究 | |
| | 長崎大学熱帯医学研究所 | 麻田 正仁 |
| 第25回（平成28年度） | 妊娠によるマラリア病態重症化機構の解明 | |
| | 杏林大学 | 新倉 保 |
| | 輸入アライグマ科動物から検出された新種回虫の形態学的、系統分類学的ならびに病原性に関する研究 | |
| | 日本獣医生命科学大学 | 常盤 俊大 |
| 第26回（平成29年度） | 糞線虫 <i>Strongyloides</i> が保有するベネスタチンの機能解明 | |
| | 北里大学医学部 | 坪川 大悟 |
| 第27回（平成30年度） | 該当者無し | |
| 第28回（2019年度） | Establishment of molecular biology approaches for <i>Perkinsus marinus</i> | |
| | 東京大学大学院医学系研究科 | 坂本 寛和 |
| | 赤痢アメーバは IFN- γ 依存的に排除される | |
| | 群馬大学大学院医学系研究科 | 下川 周子 |
| 第29回（2020年度） | ヒト細胞内におけるトキソプラズマ病原性因子 GRA15 による新規の宿主免疫抑制機構の解明 | |
| | 東北大学大学院農学研究科 | 伴戸 寛徳 |
| 第30回（2021年度） | Three-dimensional electron microscopy analysis reveals endopolygeny-like nuclear architecture segregation in <i>Plasmodium</i> oocyst development | |
| | 国立感染症研究所 寄生動物部 | 荒木 球沙 |
| | マラリア原虫メロゾイトのデンスグラニュールタンパク質の研究 | |
| | 愛媛大学プロテオサイエンスセンター | 森田 将之 |
| 第31回（2022年度） | 熱帯熱マラリアワクチン候補分子 PfRipr における増殖阻害活性エピトープの同定 | |
| | 愛媛大学プロテオサイエンスセンター | 長岡ひかる |
| 第32回（2023年度） | マラリア原虫の偽キナーゼ pPK1 に関する研究 | |
| | ウメオ大学 分子感染医学研究所 | 石崎 隆弘 |
| 第33回（2024年度） | 〈該当者なし〉 | |